

常磐公園 植栽計画市民ワークショップ(第5回) 会議録

- 日時 : 平成 27 年 3 月 6 日 (金) 18:30 ~ 20:40
- 会場 : 旭川市職員会館 2 階 2 号室
- 出席者 : 地域住民 10 名
 専門家 2 名 (オブザーバー)
 事務局 7 名 (旭川市公園みどり課 3 名、(株) 建設技術研究所 4 名)
 傍聴者 3 名
- 配付資料 : 議事次第
 第 5 回 常磐公園 植栽計画市民ワークショップ 説明資料
 事前にいただいた御意見と回答 (抜粋)
 常磐公園植栽計画 (素案 - 作成イメージ) 御意見と回答について
 常磐公園植栽計画 (素案 - 作成イメージ) 御意見と回答について
 (23 日以降いただいた御意見)
 植栽計画 (素案)
 " 5 章 - 加筆修正案
 第 4 回常磐公園植栽計画市民ワークショップ傍聴者意見
 【参考資料】常磐公園植物管理マニュアル (案)

会議録

開会・挨拶後のオリエンテーションで、本日の進め方について説明した。これまでのワークショップで行われた討議を踏まえて植栽計画(素案)を作成し、今回のワークショップは、その植栽計画(素案)を確認・修正して最終回とすることを説明した。また、前回のワークショップの振り返りが行われ、植栽平面図(修正案)については概ね了承されていること、公園全体の課題についての意見も出されていることなどを報告した。

次に、事務局が、第 4 回ワークショップ後に送付した植栽計画(素案 - 作成中イメージ)について頂いた意見への回答を説明した。限られた時間の中で主な意見に対する回答のみであったが、説明しきれない回答については、配布した資料に記載されている旨を説明した。続いて、植栽平面図について、第 4 回ワークショップ以後の意見を踏まえた修正点と、その修正案を基にした復元イメージについて説明した。また、今回の主な議題である「法面緑化」、「調整が必要な意見」について説明し、グループ討議では、それらの議題を中心に討議がなされた。

法面緑化については、外来種の侵入は防ぎきれないとの認識で共通しており、侵入してきた外来種は抜き取り等の維持管理により対処出来ないかとの意見や、外来種をどこまで排除する必要があるのか(出来るのか)疑問との意見、法面侵食の危険性もあり在来種による積極的な緑化が望ましいとの意見など様々な意見が出された。グループ間でも意見の相違のある難しい課題であったが、最後は事務局の判断に委ねるとの合意がなされた。その他の調整が必要な意見については、概ね現計画で良いとの判断であり、いずれにしても数十年後に、その時点での生育状況を見ながら計画を修正していく必要があるとの意見も出された。

最後に事務局を代表して公園みどり課課長がこれまでの協力に対する感謝を述べた。今後、作成してきた植栽計画(素案)の最終確認のための送付を予定していること、4月にパブリックコメントを実施する予定であるとの説明があり、5回に渡り開催されたワークショップの閉会となった。

■ Aグループ

植栽計画

全体のバランスは良くなった
植栽が育って実際に形になるのは、数十年後なので、この計画地を含めて公園全体の植栽計画について継続的に議論をしていってほしい
植栽の成長は長い時間をかけて見守ってほしい
移植木の管理はしてもらえるのか？
今後は植栽の成長についてはどう管理するかが重要だろう

調整が必要な意見

【危険木】
危険木は人命第一に考えて欲しいので必要な時に対策をして欲しい(大木=危険木ではないので、危険と判断した時に適切な対応を検討して欲しい)
現状の姿をできるだけ残すことも考えて検討して欲しい
日常管理の中でこまめに安全確認や手入れすることが第一
【針葉樹、シラカンバ、つる植物】
針葉樹、シラカンバ、つる植物は多種多様性の面から現計画内容で良いのではないかと
【移植】
移植木についてはしっかり枯れないように管理をして欲しい

法面緑化

何もしないということもありでは？
外来種が入ってきたら人的対策で抜き取る(ボランティア等)のはどうか
芝工、在来種草本、植生シート、いずれも反対
法面に吹き付けや貼り付けなどの手を加えないということできないだろうか？
法面の保護は一定期間の立入禁止により、様子を見ながらその都度対策をとるべき
自然発生という考えが良い。必要ないものは抜き取って管理する
北彩都ではどんどん外来種が来る。自然界は遷移して来ている外来種が100年後には在来種になる
ツルアジサイ等が現場に適合したとして、繁殖できるような草刈り等の手入れをして欲しい。難しい面があり郷土種から新しい種が出てくることもある。
新しく出てきて良いものは残していく管理をする
しっかりと予算をつける必要がある。
法面緑化の整備費の一部を管理(人件費等)に使うべきと考える
ボランティアの活用等もあるが完璧には難しい
少なくとも「オオハンゴンソウを抜く」とか悪い部分だけ対応する
最低限の対応をしたい

その他

公園全体については緑の回廊、周辺との連続性、市の中心の緑という観点で考えて欲しい
ブッシュは立入禁止が基本のようだが、子どもが入って観察や触れ合って遊べるようにして欲しい
サインは無駄なものをなくして適切な設置位置を考えて欲しい
あずまやは無くても良いのではないだろうか

■ Bグループ

植栽計画

自然更新ゾーンの広さでは樹林は形成できない
自然更新ゾーンはヤナギが自然更新できる環境ではない、ハルニレは可能
他の高木の下へ枯葉を集めて天然更新を促す方がよい
植栽計画は10年単位ぐらいで見直しが必要
ヤナギの植栽種はなぜエゾノキヌヤナギなのか？
周辺の河川で量が多いのはオノエヤナギやエゾヤナギなど
オノエヤナギも十分きれいに見える

調整が必要な意見

- 【針葉樹】
多様性、景観上必要であり量は好み
育てていって考えると良いので当面この計画で良い
- 【シラカンバ】
今の本数なら問題ない
花粉はシラカンバだけの問題ではない
- 【大木】
大木は一概にして危険木ではなく個々で対応を考えていくべき
- 【つる】
ブドウ、コクワは害があるが気根で登る種を選定しており心配ない
- 【移植】
移植にはお金がかかるが、植栽直後少ない緑で良いのか
- 【外来種】
将来的な植替え時に郷土種にしていけば良い
ここは外来種でなくて在来種で緑化が可能
ここは樹で楽しんでもらいたいので花壇は不要
イチヨウも外来種である、外来種は全て排除したいのか疑問

法面緑化

外来種をひとつも入れないという考え方はおかしい
シロツメクサ(ホワイトクローバー)が侵入するのは悪いことか
クローバー等の低い種は良いのではないか
防犯上大型の草本は危険、子供に危ない
街灯はあるが防犯上、草丈は低くしたい
芝が良いのは踏まれる事が多い場所
在来種メインで場所を考えて芝生にする
園路周辺だけを芝生にすれば良い
在来種の種子吹付が良い

その他

常磐公園は身近にいるお客さんを案内するのに良い場所となっている
街灯はLEDの方が虫が集まりにくい